

小学校 高 学年< 5 - (6) >

学 年	5年	時 間	学級活動（帰りの会等の短学活を利用） 「地震がおさまっても注意しよう」5年①	時 期	9月(避難訓練 前) or 適時	時 数	15分～20分
目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>地震の大きなゆれがおさまった後に起こる危険なことや、注意しなくてはいけないことを知る。</li> <li>身近にいる大人の指示に従って、また自分で判断して安全に行動することができるようにする。</li> <li>地震がおさまった後に地域で助け合うことや、自分たちにできる助け合いがあることを知る。</li> <li>避難場所や家族と離れている場合の連絡方法を知る。</li> </ul>						
資 料・準 備	スライド（文科省・防災教育教材「災害から命を守るために」(H20.3)高学年 地震・津波②「地震がおさまっても注意しよう」、ワークシート（文科省CD-ROM内のワークシートの吹き出しの中の文字を切り取ってしまったワークシートを授業者が準備）、鳥取県で起こった地震の被害写真（スライド）、資料プリント（情報収集と安否確認）						

展開

	学習活動と内容 主な発問・指示(◇) 予想される児童の反応(・)	指導上の留意点 支援(○) 評価(☆)
導 入	1 地震の大きなゆれがおさまった後について学習することを知る。 <b>スライド1-1～3を提示</b> または、 <b>鳥取県被害写真のスライドを提示</b> ◇地震のゆれがおさまった後に起こることを考えてみましょう。	○地震の大きなゆれがおさまった後も、余震や火災の発生など危険があることについて、スライドの写真、または、準備した写真等を見せて想像させる。 ○スライドの写真もよいが、鳥取県の地震被害の写真の方が身近に起こった地震ということから、導入には効果的である。
展 開	2 地震がおさまった後、災害の現場ではどのような状況が起こるか考える。 <b>スライド2を提示</b> ◇地震がおさまったら、どうしますか。 ・学校では先生の指示に従って集まる ・声をかけ合って無事を確かめる ◇無事を確かめる方法にはどんなものがあるか知っていますか。 <b>スライド3を提示</b> ◇地震がおさまった後に、けがをしている人を見つけたらどうしますか。 ・近くの大人を呼んで、助けを求める ・119番に電話する（右参照） ・声をかけてけが人を励ます ◇声をかけて、けが人を励ます場合、どんな言葉で励ましますか。吹き出しの中に言葉を書いてみましょう。（ワークシート記入） <b>スライド4を提示</b> ◇地震がおさまった後に、火事が起こることがあります。火事を見つけたらどうしますか。吹き出しの中に言葉を書いてみましょう。（ワークシート記入） ・近くの大人に知らせる ・119番に電話する	○地震がおさまったら、まず家族同士や友達同士で無事を確認することを指導する。また、安全確認の方法の例を紹介する。 ○災害伝言板171を紹介する。＜資料プリント＞いざというときの大切な手段である。覚えておくとともに、家族にも知らせるよう指示しておく。 ○けが人を発見したら、大人に知らせることの大切さを指導する。 ○大規模災害時は119番がつながりにくいことを説明する。 ○吹き出しの中の文字を切り取ってしまったワークシートを配布し、1を書いて、グループで話し合わせる。 ○ふきだしの中の言葉を考えることにより状況を想像させ、自分ができることを考えるよう指導する。  ○子どもだけで火を消すのは危険であることや火災を発見したら大人に知らせることを指導する。  ☆大人に伝えることの大切さが理解できたか。 ☆地震がおさまった後でも、危険なことや注意しなければならないことがあることが理解できたか ☆ワークシート1への記入とグループの話し合いを通して、地域の活動に関心を持ち、自分ができる助け合いについて考える姿勢が身に付いたか。
ま と め	4 地震がおさまった後の行動で大切なことを確認する。 ◇地震がおさまった後の行動で大切なことはどんなことでしたか。 ◇資料プリントの「わが家の避難場所と連絡方法」を家族と話しあって書いておきましょう。	○余震に対する注意や危険な場所には近づかないこと。 ○自分たちにもできることは進んですること。 ☆地震が収まった後も、安全に行動する姿勢が身に付いたか。 ○帰ってから、家族と話しあい、資料プリントの「わが家の避難場所と連絡方法」を書き込みましょう。

関 連 す る 教 科 ・ 領 域 等	(学級活動)「地震だ！まず自分たちの身を守ろう」 (短学活)「地震がおさまっても注意しよう」5年② (学校行事) 避難訓練
協 力 団 体	